



が見つけた遠隔授業での学び

本企画は、遠隔授業を受けている福大生の皆さんにインタビューし、遠隔授業での学びや大学生活について紹介するものです。学生の皆さんには、同じ学友としての仲間が苦勞しながらも頑張っている姿をとおして、少しでもヒントを得てもらえればと思っています。七隈キャンパスに集えない状況ですが、福大生たちが共に学んでいる様子をお伝えしていきます。



商学部経営学科
3年次生

砂畑 龍太郎 さん

Case5：現代に自分を同期する、今だからこそアップデート!

今回のインタビューは、商学部経営学科3年の砂畑龍太郎さんです。“学生は言いたがり、暇だとムダに考えたがり”という名言とともに、砂畑さんはとても広い視野でこの遠隔の状況と自分自身について分析的に話してくれました。遠隔環境下に関わらず砂畑さんが持ち合わせているマインドからは、この状況をどのように解釈し、どう付き合っていけばよいのかを考えるヒントが満載です。Webライターも経験したことがある砂畑さんの“非凡”な表現も是非味わってください!

冷静に受け止められた遠隔授業

遠隔授業の開始はFUポータルで知りました。その時はここまで長期間にわたるとは思っていなかったのですが、春休みの延長で在宅時間が長くなるな程度程度の印象でした。遠隔授業を受講する物理的な環境が整っていたということもあり、案外スムーズに取り組みました。

遠隔授業は現在進行形

今振り返ると、はじめのうちは教材配信型（あくまで臨時的措置という意味合いでの）の授業が多く、そのうちもとに戻るだろうという雰囲気がかんがえられたように思います。前期は9科目履修していますが、2科目がオンデマンド型です。残りはリアルタイム配信型と教材配信型が混在した授業形態となっています。授業期間の後半になっても色々形態が変わってきているので、単純に3つの型に当てはめることは難しいですね。

オンデマンドの授業に関してはとても受講しやすいです。授業のスピード感の遅さとか**対面授業の際に感じていた自分とのミスマッチが解消**されるので、YouTubeやmp4の動画配信やmp3での音声配信は再生速度の変更が自在ですし、夜間も含めて自宅でいつでも受けられるのはありがたいですね。おかげで、日中は授業以外の活動に取り組むことができます。遠隔環境下では時間的な制約を受けにくくなるという意味で時間割の捉え方が従来より弾力的になった気がします。**この環境は結果的に学外で活動している学生の支援にもなっている**かもしれませんね。

受講生として思うこと

まだまだ全体が遠隔授業に慣れていない現状に対しては、方々に色々と思うところはあります(笑) 具体的には遠隔授業で使用されるツールが多く一元化されていないこと(授業によって全く異なること)、教材配信型では先生とのコミュニケーションが少なくなること、自分たち受講者側の遠隔リテラシーを高めること等々でしょうか。あわ

せて、大人数講義はリアルタイム配信型よりもオンデマンド型の方が相性いいように思いますね。

毎回フィードバックをもらっている授業は、受講しているためになると感じています。自身への個別のフィードバックという意味合いだけではなく、いかに**受講生全体に還元してくれるかがポイント**だと思います。授業中の学生からの良質な質問を積極的に評価する工夫がなされた授業ではこちらも頑張ろうって気になりますしね、先生にしてやられたなと思える授業は面白いです(笑)「授業の工夫＝学生への配慮(講義理解度向上+ユーザー体験)」なんだと受け止めています。例えば、私たちは動画に慣れている世代ということもあり、一人で話し続ける動画よりかは複数でにぎやかに対談している形式の動画の方が見慣れているので、そういったところが授業に反映されていたりすると受講生のモチベーションも上がるかもしれません。

今やらないともったいない

学生生活上でも困っていることはありません。従来のように友達と頻りに会えないのはさみしいことですが、会えないからこそ自分でやるべきことがやれる時間として意味づけています。でもやっぱり久しぶりに友達に会えると嬉しいですね!

この間、商学部のゼミ選び真っ只中の2年生に向けて、ゼミ紹介を目的とした取材班を所属ゼミで立ち上げました。この状況下で2年生は情報収集が難しく大変だろうなという思いから行動に移しました。もともと2年生がゼミを選択する際の情報源は属するコミュニティでの口コミ(それぞれ評価が違う)と実際にゼミを訪れた際の印象なんです。それが今年度のゼミ選択はオンラインで決まったので、圧倒的に情報が少ない2年生に向けて自ゼミ・他ゼミの魅力をインタビュー記事の形で発信しました。具体的な活動としては各ゼミをインタビューして記事を書いたり、Youtubeの動画をメンバーに作ってもらったり。それらを見て反応してくれる2年生は多かったようで嬉しいですね。

取材して記事を書くということを毎日続けていたら、ゼ

メンバーの機運が高まって『なんでも取材班』を立ち上げるようになったんです（詳しくはコチラ→<https://note.com/8181tobita>）。取材する内容もさることながら、こういう運営の部分に**学生である自分たちが関与すること自体に価値がある**のだろうと思っています。



written by RYUTARO

📖 9本

飛田ゼミ取材班創設（しただけ）者、編集長（独断）、福岡大学商学部3年生の砂畑龍太郎が書いた記事をまとめております。

※<https://note.com/8181tobita/magazines>より抜粋

勇気を持って行動に移す

「行動を起こす」ということには、いつも勇気をもって取り組んでいます。自分自身を顧みても、大きな決断をする際には勇気をもって臨んでいますね。中学校の吹奏楽部にも頑張っって背伸びして入部しましたし、高校進学も吹奏楽部の強豪校に入るために引っ越しするを選択しました。それまで頑張ってきた音楽の道ではなく福大入学を選択したのも勇気のいる決断でした。そんな感じで自分自身で考え尽くして意思決定をしてきました。

福大入学後では、ゼミ主催のベトナムへの企業研究に一念発起して参加したことが大きかったと思います。ここで自分の中にひとつの“成功体験”を得ることができました。これを機に個人的にブログを始めるようになり、そこからwebライターのインターンにチャレンジすることにつながっていきました（砂畑さん執筆の記事はコチラ→<https://fukuoka-leapup.jp/article/13/202004.46>）。このような一つひとつの**意思決定が、着実に次につながり活かされ、成功体験がついてくるという経験**に正直味を占めるようになっていきます（笑）インターンではミスをして社会的に淘汰されないといいますが、ある程度許されるといふ学生の立場に甘えて、色々なことにチャレンジさせてもらいました。チャレンジして99/100が失敗だとしても

1/100学べたならそれはとても価値あることだと思えます。チャレンジせず学びがゼロなのは嫌です。毎日同じ生活が続くことは好きじゃない性格なので、毎日何かしら変化させていたいと常々思っています！

新しい価値を創出する側に

将来を見据えても、今しっかりやれば何かがついてくるだろうという気持ちでいます。従来通りの「与えられた価値」を享受するのは確かにやりやすいですけど、**自分で価値を見出していくことができる**といいのかなと思います。みんなで「新しい価値」を見出すことをしていけば、この遠隔の状況に限らず、様々な価値が生まれてくるんだろうなと。それもしっかり根拠をもって選択して、納得できる方向に進めるように頑張っていきたいです。遠隔の形態はなかなか変わらないかもしれませんが、だからこそ積極的に新しい意味を見出していきます。とにかく今は色々アップデートしていかないといけないタイミングだとも思います、全員がこの“現実”に自分を上手に同期していければいい方向に進めるのかなと思っています。

福大生へのエール

逆境はアドバンテージ！

既存の価値に依拠しなければ、この状況は自分たちにとってアドバンテージだと捉えることもできると思います。大学生活にしても友人関係にしてもこの先をどうしていきたいかを模索しながらやっていくしかないと思います。今までのやり方にこだわる必要は必ずしもないわけで、それがすべてでもないですし。まったく元通りに戻るということも考えられない中で、不確実な未来に対して、いかに自分の資源を増やし活用できるかが大切になってくると思います。これは僕が所属するゼミで大切にしているアントレプレナーシップ（起業家精神）です。今はまさに不確実な事態の中にいますが、だからこそ自分自身を高めていくことを忘れないようにしています。



注：Webでインタビューさせて頂いた内容を元に再構成しています。文責は、インタビュー担当者にあります。



目指せ！遠隔授業マスター☆

今回のキーワード：イノベーション

現在、遠隔授業ができていいるのも様々な技術革新のおかげ。もしこの状況が20年前に起こったなら…スマホではなくガラケーの時代で、回線も当然のことながら4Gなどではなく…一体どうなっていたんでしょう（汗）もとなる技術はあったのかもしれませんが、それが一般に普及しないと社会に変化を及ぼすことはできませんよね。砂畑さんの言うところのアントレプレナー（起業家）がその部分を担ってくれたんだろうと想像します。私たちもアントレプレナーやイノベーター（革新者）の精神を少しでも持ち合わせられるよう、社会の変化に敏感かつ柔軟でいたいものです。



編集・発行：福岡大学教育開発支援機構（A棟地下1階）

内線：2852・2853 E-mail：kyokiko@adm.fukuoka-u.ac.jp

HP：http://www.idshe.fukuoka-u.ac.jp/ Twitter：@fu_idshe

令和2年9月18日発行